

ユネスコエコパーク登録から10周年

自然と共に歩む只見町

未来に向け決意を新たに

平成26年度に登録された只見ユネスコエコパークは、今年度で10周年を迎え、その記念式典が11月4日に季の郷湯ら里で開催されました。式典に先立ち、映画上映会が行われ、約150人が参加し、プラスチック肥料を使わない環境に優しい只見町の新米が記念品として配布されました。

上映された映画は、民族文化映像研究所が作製した「越後奥三面（えちごおくみおもて）―山に生かされた日々―」で、現在はダム湖底に沈んだ新潟県朝日村奥三面集落の山獺、川獺、採草など山村の日常生活文化を記録したドキュメンタリー映画です。

只見町と同じ豪雪の山村にある暮らしから、豊かな自然と伝統的な生活文化の重要性を再確認しました。

記念式典では、渡部町長が登録から10年間の取り組みに対する支援、協力に対し感謝を述べ、「ユネスコエコパークをまちづくりの根幹として取り組みを加速させるため、引き続き、多くの方々の協力をお願いしたい」と挨拶しました。また、ユネスコエコパーク推進係の中野係長から、野生動植物の保護監視員制度や伝承産品開発など只見ユネスコエコパークの10年の歩みが報告されました。

最後に、渡部町長は、生物多様性を回復軌道に乗せる国際目標「ネイチャーポジティブ」を宣言しました。この宣言を機に、只見町はネイチャーポジティブの実現を目指すとともに、人と自然が共に豊かに暮らすユネスコエコパークの地域づくりをより力強く進めていきます。



只見町ネイチャーポジティブ宣言

「ブナと生きるまち 雪と暮らすまち」を理念に、この地に受け継がれてきた自然・歴史・文化・暮らし・産業などの地域特性を活かした町づくりを進め、健全な自然環境を次世代に確実に引き継ぐために、2007年に「自然首都・只見」宣言を行ないました。

その宣言に基づく取組み等が評価され、2014年に自然と人が共生する国際モデル地域、「只見ユネスコエコパーク」に登録されました。

以降、只見地域の豊かな自然環境と野生生物を守りながら、この地で育まれた伝統的な生活文化を維持しながら継承する、豊かで持続可能な地域社会の発展を目指す取組みを推進しています。

現在、国際社会では、2030年までに生物多様性の損失を止め、反転させ、回復軌道に乗せる「ネイチャーポジティブ」を目指す国際目標が掲げられています。

只見町はその動きに参画し、ネイチャーポジティブの実現を目指すことを宣言します。

- 1 「自然首都・只見」宣言に基づき、只見町の豊かな自然の価値を認識し、その恵みを次世代に確実に引き継ぎます。
- 2 人と自然の共生を科学的根拠に基づき実現するために、学術研究やモニタリング、教育や人材育成を推進します。
- 3 自然の恵みを持続可能な形で活かし、社会課題の解決に取り組むため、豊かな山林資源や水資源の活用など再生可能エネルギーの構築に努めます。
- 4 地域資源の活用と自然環境・生物多様性の保護・保全の取組みが一体となったネイチャーポジティブ経済を推進するため、自然資源を活用した生産物の生産や開発、エコツーリズム・グリーンツーリズムを推進します。
- 5 他地域間や企業・団体との連携を促進し、只見町だけでは対処できない課題を解決するため、多種多様な自然生態系を拠り所とした伝統的な生活文化を継承・発展させ、人間と自然とのつながりを大切にす価値観や行動を育む取組みを推進します。

2024年11月4日

只見町長

渡部 勇夫

「ネイチャーポジティブ」とは？

私たち人間は、自然の様々な恵みによって支えられています。しかし、経済活動による環境破壊などにより、自然が失われています。このままでは、私たちの生活も失われてしまいます。

そこで「2020年を基準として、2030年までに自然が損なわれるようなことを食い止め、回復させ、2050年までに完全な回復を達成し、自然と共生する社会を実現する」という世界的な社会目標が「ネイチャーポジティブ」です。

ユネスコエコパーク登録10周年を迎えた只見町もこの考え方に賛同し、「ネイチャーポジティブ宣言」を行い、人と自然が共に豊かに暮らす地域づくりをより力強く進め、ネイチャーポジティブとして掲げる目標の実現を目指していきます。

